

池の周囲の岸近くに群生していた。C 池は水際の数ヶ所でミズスギナが確認された。なお、C 池は 2024 年度に池の改修工事が予定されており、定期的に生育状況を調査した結果、6 月 20 日から 12 月 1 日までミズスギナの生育を確認した。

(5) マツカサガイ生息地

令和 4 年に新たな生息地を複数確認したことから、愛媛大学等関係者、地元自治会等と連携した保全対策を実施した。中予地域の A 水路では、水路清掃前の 4 月 6 日に 283 個体を一時捕獲し、再放流した。また、水路工事の前の 2 月 13 日に 288 個体を一時捕獲し、愛媛大学付属高校で畜養している。東予地域の B 水路においては 5 月 7 日の水路清掃に関係者が参加し、マツカサガイを一時

捕獲し、清掃後に放流した。1 ヶ月ごとに水路の状況を確認しているが、年間を通して十分な水量であった。この地域では大規模な圃場整備が計画されているが、本水路は現状維持される予定である。東予地域の C 池においては、昨年の生息確認後、1 ヶ月ごとに水域の状況を確認している。水は池下の水田に利用されており、水稻栽培期間中に水位が低下するが、特に今年度は 9～10 月の少雨により池の水位が大幅に低下したことから、マツカサガイの生息環境に影響を与えた可能性がある。また、南予地域で新たにマツカサガイの生息が確認されたため、12 月 13 日に周辺水路を調査した結果、約 1300 個体のマツカサガイが確認されたが、数年内に改修工事が計画されていることから、関係者と協議しながら保全対策を検討する。

令和 5 年度ニホンカワウソ無人カメラ調査

生物多様性センター

国の特別天然記念物であり、本県の県獣に指定されているニホンカワウソは 1975 年に宇和島市九島で捕獲された個体以降、確実な生存情報はなく、愛媛県レッドリスト(2022 年改訂)では絶滅危惧 I A 類に区分されている。な

お、環境省はニホンカワウソを絶滅種として判断しているが、愛媛県生物多様性センターでは平成 24 年以降、センサーカメラを設置し、撮影データの確認を継続している。令和 5 年度、ニホンカワウソもしくはニホンカワウソの可能性のある哺乳類は撮影されなかった。また、カメラ No. 1 の地点において特定外来生物であるヒゲガビチョウの疑い種が確認された。ヒゲガビチョウは南予地方で分布を拡大しつつある。

令和 5 年度 ニホンカワウソ無人カメラ撮影状況

令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

カメラ ナンバー	場 所	確認された哺乳類		確認された鳥類	
			種数		種数
1	宇和島市(半島の道路近くの水路)	イタチ、イノシシ、タヌキ、テン、ネズミ類、ハクビシン	6	キジ、ヒゲガビチョウ疑い種、ヒヨドリ、ヤマドリ、不明 7	11
2	宇和島市(半島の廃集落の水路)	アナグマ、イタチ、タヌキ、テン、ネコ、ネズミ類、ハクビシン	7	アオジ、ウグイス、シロハラ、ジョウビタキ、ヒヨドリ、ヤブサメ、ヤマシギ、不明 1	7
3	愛南町(岬の沢沿い)	イノシシ、ウサギ、タヌキ、ネズミ類	4	ハシブトガラス、ハシボソガラス、不明 1	3
4	愛南町(ため池の排水路)	イタチ、タヌキ、ネコ、ハクビシン	4	モズ	1

※カメラ No.1 は 2023 年 11 月 28 日に調査終了。No.2 は調査継続、No.3, 4 は 2024 年 1 月 30 日から新規調査開始。